

集計の概要

1. 概要

統計局では、平成16年全国消費実態調査を対象に、公表可能な統計表に基づいて作成された、広く一般的に活用可能なマイクロデータの作成手法について、独立行政法人統計センターと共同研究を行った。本件はその成果に基づき、平成21年全国消費実態調査結果を用いた集計結果を取りまとめたものである。

2. 集計対象

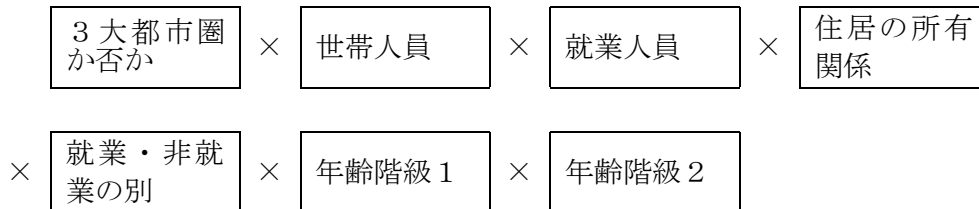
平成21年全国消費実態調査の二人以上の世帯（家計収支編）のうち、約9割を無作為抽出するとともに、収支金額が高額な世帯を除外した上で集計を行った。そのため、平成21年全国消費実態調査結果とは一致しない。

3. 度数、世帯数分布、平均及び標準偏差の算出

全世帯、勤労者世帯別に、集計項目の組ごとに、度数（集計世帯数）、世帯数分布（抽出率調整）及び収支項目別の平均値（加重）、標準偏差（加重）を求める。

(1) 集計項目の組

全世帯



勤労者世帯



(2) 度数（集計世帯数）

集計項目の組ごとに、世帯ごとに付与された集計用乗率を用いず、実分布による集計世帯数を算出する。

$$\frac{\sum_i \sum_j M_{ij}}{3}$$

M : 集計可能な調査票の有無
 i : 市区町村
 j : 世帯

また、連続して3か月間調査していない世帯等の集計対象世帯の取り扱いについては、本調査と同様、例えば2か月のみ調査した世帯については2/3の世帯として含めている（以下同じ）。

(3) 世帯数分布 (抽出率調整)

集計項目の組ごとに、世帯ごとに付与された集計用乗率 β を用い、次のとおりの推定式により、世帯数分布 (抽出率調整) を算出する。

$$\frac{\sum_i \sum_j \beta_{ij}}{3}$$

(4) 平均値 (加重)

集計項目の組ごとに、世帯ごとに付与された集計用乗率 β を用い、次のとおりの推定式により、収支項目別の平均値 (加重) を算出する。

$$\bar{x} = \frac{\sum_i \sum_j \beta_{ij} x_{ij}}{\sum_i \sum_j \beta_{ij}} \quad x: \text{集計項目}$$

(5) 標準偏差

集計項目の組ごとに、世帯ごとに付与された集計用乗率 β を用い、次のとおりの推定式により、収支項目別の標準偏差 (加重) を算出する。

(参考) 変形式

$$s = \sqrt{\frac{\sum_i \sum_j \beta_{ij} (x_{ij} - \bar{x})^2}{\sum_i \sum_j \beta_{ij}}} \quad s = \sqrt{\frac{\sum_i \sum_j \beta_{ij} x_{ij}^2}{\sum_i \sum_j \beta_{ij}} - \bar{x}^2}$$

4. 相関係数の算出

全世帯、勤労者世帯別に、収支項目別の相関係数を算出する。